

評価実施年度	令和 5 年度	学校名	大分県立 大分舞鶴 高等学校
--------	---------	-----	----------------

学校教育目標	舞鶴魂「生まれ、がんばれ、なげかれ、おしきれ」を体現する。		
--------	-------------------------------	--	--

重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
------	------	-------	----	---------------

カリキュラム・マネジメントの 確立	学校教育目標	○的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・数年間を見通した学校経営ビジョンが策定されている。 ・校長のリーダーシップの下、学校教育目標を達成するための組織的な教育活動が効果的に展開されている。 ・グローバル教育の推進に向けて、留学生の受け入れ、海外高校との教育交流等、今後さらなる推進が期待される。	・本年度策定したスクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、本校で学ぶすべての生徒に対し、今後の社会で有用な力を確実に身に付けるよう、普通科、理数科とも「科学的」「学際的」な特色ある教育活動を展開する。 ・これからのグローバル社会を見据えて本校が定めた「MAIZURU GLOBAL POLICY」に基づき、留学生の受け入れによって校内に多文化、多言語環境を実現すると共に、タイ王国やニュージーランドの姉妹校等との文化、科学交流を一層促進して、国際社会で多様性を尊重して生きる態度の育成を図る。
	PDCAサイクル	○重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 ○取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 ○予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・良い ・分掌主任や主幹教諭が縦・横とのつながりを保つ役割を果たすなど、効果的な運営体制が整備されている。 ・重点目標を達成するために、校内分掌同士の連携を効果的に図りながら、教育活動が遂行されている。 ・達成指標及び取組指標について、重点目標と重点的取組の関係性の深化が求められる。	・次年度の重点目標を「主体性」「探究力」「協働性」をキーワードとしたものに定め、その実現に向けては本校の強みである縦と横のつながりをベースに組織的に取り組んでいく。 ・学校評価においては、重点目標と重点的取組との整合、重点目標と達成指標、重点的取組と取組指標との関連性を一層高めるものとする。目標達成に向けては適切にPDCAサイクルを回し、運営委員会や教務運営委員会、理数科運営委員会において検証するなどし、絶えず本校教育活動のアップデートを図っていく。
	社会との連携・接続	○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。（ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等） ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・学校HPやSNS等が有効に活用されており、育成したい生徒像を保護者と共有しようとする姿勢は評価できる。 ・Instagramを活用し、部活動、理数科、SSHの取組等を随時アップしており、学校の特徴をアピールしている。 ・教員と保護者との認識に隔たりの大きいアンケート項目の要因を分析して、適切に対応することが求められる。	・学校HPやInstagram等のツールを利用して、本校が育成を目指す生徒像とその実現に向けた取り組みなどを今後も広く周知する。とりわけ学校関係者である保護者及び学校評議員に対しては、本校の教育活動に十分に理解いただくと共にその取組を評価していただき、本校の不断の教育改革につなげることとする。 ・本校の強みとする同窓会組織やスーパーサイエンスハイスクール指定の下で築いてきた企業関係者、大学関係者等との連携を一層強め、生徒が実社会とつながりを感じられるキャリア教育の展開を図る。

主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	○授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 ○総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い ・多くの生徒が積極的に参加している様子が見られ、主体的・対話的な学びを意識した授業が展開されている。 ・授業のねらいの明示がなされていない授業も見られ、ICTの活用についても、さらなる授業改善が求められる。 ・SSHの研究内容は大変高度であり、生徒が主体的に取り組んでいる姿が見られた。 ・理数科・普通科併設を活かした教科等横断的な学びのSTEAM化が推進されていることは評価できる。	・一人一台端末の導入期としての数年間は、授業における効果的な活用を主眼として授業のアップデートを図り、生徒アンケートにおいて一定の成果が得られたことが確認できた。今後は、本校がスーパーサイエンスハイスクール指定の下で磨いてきた「探究的な学び」が全教科、科目において展開されるよう、学校全体で授業改善の重点として取り組むこととする。 ・授業においては、どのような資質・能力を育成するのかのねらいを教職員が常に明確にして臨んでいるところである。それらの授業のねらいが生徒の主体的な学びを促し、見通しをもって学んだり、自分の学習の過程や学習の成果を適切に振り返ったりすることにきちんとつながるよう、授業のどの場面でどのようにして共有されることが効果的であるかを授業構想の一つのテーマとして授業研究を行うこととする。
-----------------	--------	---	--	---

安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。  ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い ・保健室に来室・相談に来る生徒が増えているが、不登校の生徒が減少している。 ・不登校の生徒に対し委員会を組織し、ケース会議を開催するなど体系的に個々の生徒の状況に対応できている。 ・生徒個々人に寄り添い、生徒の立場を尊重した指導を展開しようとする姿勢が読み取れる。	・毎週の不登校対策協議会における学校全体での情報共有と、生徒個々の状況に応じたケース会議において、多角的、多面的に生徒支援、保護者支援の方策を検討している。その過程で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから効果的な指導助言をいただくことができおり、今後もこの体制の維持を図ることとする。 ・いじめ、不登校防止に向けて、平素の関わりや面談、アンケート等を通して生徒の状況を適切に見取り、家庭及び関係機関等と連携して、生徒の安全・安心な学校生活を保障する。
	安全管理	○学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。  ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・極めてよい ・危機管理マニュアル、警備防災計画もきちんと整備され、生徒指導部を中心に安全管理を積極的に推進している。 ・サイクルリーダー(自転車の安全運転を啓発する生徒集団)の活動による自転車安全運転が励行されている。 ・防災リーダー(防災意識の啓発を図る生徒集団)の活動による防災意識の向上が見られる。 ・学校の安全管理に生徒自ら取り組んでいる点などは評価すべきである。	・交通安全教育については、主体的な生徒の取組も含めて学校全体で推進しており、意識の高まりも見られるが、年度当初の新入生による交通事故の防止に向けては、サイクルリーダーによる交通マナー遵守の声掛けや危険マップの周知徹底を図りたい。 ・非常災害に際して自衛的に活動する防災リーダーの活動がより活性化し、それにより生徒全員の防災、減災の意識が高まるよう、自衛隊等外部機関と連携したリーダー研修や、生徒の企画、運営による防災避難訓練を実施する。

信頼される学校づくり	働き方改革	○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・職員研修の精選および選択制の導入、ICTの活用を始めとするDXの推進により「働き方改革」を推進している。 ・管理職が働き方改革の意味をきちんと理解し、働きがいのある働き方へシフトしている姿が見られる。 ・今後は校務DXを一層推進し、部活動や進学指導を念頭に置いた働き方改革が進展することが期待される。	・教職員のワーク・ライフ・バランスの実現が、これまで以上に質の高い教育活動の提供に資するようになると共に、生徒一人ひとりの主体性やマネジメント能力の育成につながるよう働き方改革を推進する。 ・校務のDX化として、各種調査、アンケート等のデジタル化を推進しており、これらに加えて、今後は配布物のデジタル化、学校行事における出欠把握、資料配布等のDX化を図るものとする。
	学校課題の解決に向けた取組等	○グローバル社会においてダイバシティを尊重して生きる態度を育成する取組の推進	・留学生に対する日本語指導も含め、満足できる授業内容の研究が今後も期待される。 ・国際社会で活躍するリーダーを育成するため、学校全体でさらなる意識改革が進むことが期待される。 ・留学及び留学生の受入の機会の拡充、外国語を使うオンライン交流の活用の機会の更なる創出が求められる。	・外国人生徒の在籍、留学生の受け入れにより、外国語を話す機会や外国の文化に触れる機会が増加したと回答する生徒が多く、外国へ留学したり海外と関わる仕事についたりしたいとする本校生徒は増加傾向にある。 ・今後も本校で学ぶ生徒と、共に学ぶ外国籍の生徒の双方が刺激しあい、高めあって21世紀のグローバル社会を力強く生きる力を身に付けることができるよう校内体制の整備と交流等の学びの機会の拡充を図る。

総合評価	<p>・校長のリーダーシップの下、学校経営ビジョン・グランドデザイン等が丁寧に策定されている。そしてそれに基づいた学校教育目標および学校経営組織が確立されて、学校教育目標の達成に向けた教育活動が効果的に展開されている。</p> <p>・今日舞鶴高等学校を取り巻く教育状況を踏まえて、校長(管理職)を中心に、組織的かつ効果的な学校経営が展開されている。各分掌のリーダーが、学校教育目標を十分理解し、組織間で相互に連携して、学校教育目標達成のために取り組む体制が確立している。</p> <p>・外国籍生徒の編入学、学生の受け入れ、海外高校との交流が積極的に行われることに加えて、グローバル教育を推進するポリシーの作成等が行われるなど国際理解教育が推進され、「世界に羽ばたく舞鶴高校生」を育てる姿勢も評価できる。</p> <p>・学校の特徴である理数科や教科等横断的な学びのSTEAM化は、舞鶴高校の特徴であるのでそれらを発展させるための授業改善が一層求められ、授業に対する生徒の満足度を高める取組も必要になる。</p> <p>・社会の変化に伴い、学校経営組織が複雑化する傾向がみられるが、舞鶴高校においても学校教育目標を効果的に達成する方略として各種業務における積極的なスクラップ&amp;ビルドの取組が必要である。</p>			
------	--	--	--	--

校長コメント(次年度の改善策)	<p>・グローバル社会においてダイバシティを尊重して生きる生徒を育成するため「MAIZURU GLOBAL POLICY 2023」を策定し、「受け入れる」「飛び出す」「繋がる」「深める」4つの取り組みを推進しており、生徒の姿、意識には確かな変容が見られる。令和6年度は姉妹校との連携事業を主とし、グローバル教育の一層の充実を図ることとする。</p> <p>・本校が数年間にわたって取り組んできたICT活用を軸とした授業改善は一定の成果をあげている。令和6年度以降はSSH指定により本校が培ってきた「探究的な学び」について、各教科の授業においてもその趣旨を踏まえたものとなるように学校全体で「探究」をキーワードとした授業改善を推進していくこととする。そのような学びの過程において学校図書館を利用して自ら多様な情報を収集をしたり、NIEによって実社会へと広がりを持つ学びとしたりするよう授業で活用するツールについても充実を図りたい。また、学校全体での推進のため、全教科、科目での単元デザインシート(単元の指導と評価の計画)の作成に取り組む。</p> <p>・教員の働き方改革については、令和5年度は職員研修の精選及び計画的実施の側面からアプローチを図り、業務時間の縮減の面で一定の成果をあげた。令和6年度は持続可能な職員組織のための人材育成の観点から研修を捉え、世代を越えた協働型研修によって多様なロールモデルに触れ、教員個々のより良い働き方に繋げることとする。</p>			
-----------------	--	--	--	--